

令和5年度 第1回 静岡県ギャンブル等依存症対策連絡協議会

日 時 令和5年9月27日(水) 15:00～

場 所 静岡市民文化会館 第1会議室

協議事項 第2期 静岡県ギャンブル等依存症対策推進
計画【骨子案】

	スライド番号
資料 1 ギャンブル等依存症対策推進計画改定の経緯・背景	3 ~ 4
資料 2 静岡県ギャンブル等依存症対策推進計画の取組状況	5 ~ 7
資料 3 関係事業者による取組状況	8 ~ 10
資料 4 医療機関・相談機関における現状認識	11 ~ 13
資料 5 【第2期】県計画の策定に向けた検討【現状の課題認識】	14
資料 6 【第2期】県計画の策定に向けた検討【骨子案】	15 ~ 20
資料 7 【第2期】県ギャンブル等依存症対策推進計画の策定	21 ~ 27
資料 8 今後のスケジュール	28

1 ギャンブル等依存症対策推進計画改定の経緯・背景

(1) 経緯

時 期	内 容
平成30年10月	ギャンブル等依存症対策基本法 施行
平成31年4月	国：ギャンブル等依存症対策推進基本計画(第1期) (平成31年度～令和3年度)
令和3年3月	静岡県ギャンブル等依存症対策推進計画(第1期) (令和3年度～令和5年度)
令和4年3月	国：ギャンブル等依存症対策推進基本計画(第2期) (令和4年度～令和6年度)
【今後の予定】 令和6年3月	静岡県ギャンブル等依存症対策推進計画(第2期) (令和6年度～令和8年度：予定)

(2) 国基本計画の改定(R3年度末)【改定の背景】

社会状況の変化	生活様式の変化等により、公営競技におけるインターネット投票の利用が増加	自治体における相談拠点や専門医療機関の整備が進み、依存症対策の体制整備が全国的に進展
今後の取組の方向性	社会状況の変化を踏まえ、インターネット投票における依存症対策の充実	依存症対策の更なる発展のため、体制整備に加えて関係機関の連携の強化を進め、包括的な支援の実現

1 ギャンブル等依存症対策推進計画改定の経緯・背景

(3) 国基本計画における【今後の取組の方向性】

インターネット投票における依存症対策の充実

< 現状(～R3)の取組 >

購入限度額設定の導入(競馬、モーターボート競走)

インターネット投票へのアクセス制限制度の周知

< 今後(R4～)の取組 >

予防的観点から、インターネット投票サイトにおいて、視覚的に訴える新たな注意喚起表示の導入
競輪・オートレースにおける購入限度額設定の導入(競馬、モーターボート競走においては導入済み)

包括的な支援の実現

関係機関の連携の充実によるギャンブル等依存症である当事者等の包括的な支援の実現

支援・
連携体制

都道府県等における包括的な連携協力体制の構築推進
市町村における地域精神保健の充実等の具体化に着手

相談支援
治療支援

都道府県等における追加の専門医療機関の選定を促進
依存症を専門に扱う医師のほか、精神保健福祉士等の対応能力の向上

2 県ギャンブル等依存症対策推進計画の取組状況（第1期計画の概要）

重点目標

- 1 ギャンブル等依存症に関する正しい知識の普及を徹底し、将来にわたるギャンブル等依存症の発症を予防
- 2 ギャンブル等依存症に関する予防及び相談から治療、回復支援に至る切れ目ない支援体制の整備

対策	基本的な方向性	基本的施策
発生予防	正しい知識の普及・教育及び不適切なギャンブル等を防止する社会づくり	正しい知識の普及啓発
		教育の振興等
		不適切なギャンブル等への誘引防止
進行予防	誰もが相談できる相談場所と必要な支援につなげる連携体制づくり	相談支援の充実
	医療の充実と連携の促進	ギャンブル等依存症に係る医療の充実等
再発予防	ギャンブル等依存症である者が円滑に回復、社会復帰するための支援体制づくり	社会復帰の支援
		民間団体の活動に対する支援
多重債務問題等への取組	ギャンブル等依存症問題への取り国の推進	多重債務問題への取組
		違法なギャンブル等の取締りの強化
基盤整備	ギャンブル等依存症対策に向けた体制の整備、人材の確保、調査研究	依存症対策の体制整備
		人材の確保
		調査研究の活用

2 県ギャンブル等依存症対策推進計画の取組状況 第1期(R3～R4)中の取組状況

重点目標：ギャンブル等依存症に関する正しい知識の普及を徹底し、将来にわたる発症を予防

< 基本的な方向性 > 正しい知識の普及・教育及び不適切なギャンブル等を防止する社会づくり

基本的施策		指標項目・目標値	取組実施状況		担当課
発生予防	正しい知識の普及啓発	県民向けフォーラム等の開催(年1回)	R3	ギャンブル依存に関する講演、当事者によるパネルディスカッションを実施: 1回・28人参加(YouTubeで配信)	障害福祉課
			R4	家族をテーマとした講演、パネルディスカッション: 1回・83人参加	
		大学等へのリーフレット配布を通じた知識の普及啓発(年1回)	R3	子供・若者育成支援推進強調月間(下田市)でリーフレット配布	社会教育課
			R4	子供・若者育成支援推進強調月間(袋井市)でリーフレット配布	
	教育の振興	教職員向け研修の開催回数(年1回)	R3	養護教諭・保健主事対象研修を予定 コロナにより中止	健康体育課
			R4	県立学校保健主事向け研修会にて説明: 160人参加	
		高等学校におけるギャンブル等依存症を含む精神疾患に関する指導の実施(継続実施)	R3	各学校にて実施	健康体育課
			R4	同上	
	誘引防止	予防に配慮した広告・宣伝(継続実施)	R3	啓発ポスター・リーフレット配布、場内放送等にて周知	公営競技事業者遊技業協同組合
			R4	同上	
		本人・家族申告によるアクセス制限(継続実施)	R3	対応窓口を設置して本人からの申請・相談に応じて実施	公営競技事業者遊技業協同組合
			R4	同上	
20歳未満に利用させない取組(継続実施)		R3	警備員による入場者に対する声掛け、年齢確認等を実施	公営競技事業者遊技業協同組合	
		R4	同上		

2 県ギャンブル等依存症対策推進計画の取組状況 第1期(R3～R4)中の取組状況

重点目標：ギャンブル等依存症に関する予防及び相談から治療、回復支援に至る切れ目ない支援体制の整備

< 基本的な方向性 > 相談・連携体制、医療の充実、社会復帰の支援、多重債務問題への取組、人材の確保等

基本的施策		指標項目・目標値	取組実施状況		担当課
進行予防	相談支援の充実	相談拠点：精神保健福祉センター主催の相談会の実施回数(年60回)	R3	ギャンブル依存を含む相談会開催：計42回	精神保健福祉センター
			R4	ギャンブル依存を含む相談会開催：計58回	
		相談拠点：精神保健福祉センター主催の相談支援者向け研修の実施回数(年1回)	R3	ギャンブル回復プログラム：SAT-G研修：30人参加	精神保健福祉センター
			R4	ギャンブル回復プログラム：SAT-G研修：75人参加	
		関係事業者による相談支援(継続実施)	R3	公営競技事業者、遊技業協同組合ともに実施	公営競技事業者遊技業協同組合
			R4	同上	
消費生活相談員のスキルアップ研修受講者数(年300人)	R3	公認心理師を講師に迎えて相談対応研修の実施	県民生活課		
	R4	「デジタル化」を含む4テーマによる研修：296人参加			
進行予防	医療の充実	依存症専門医療機関の選定数(R5年度...3機関)	R3	聖明病院(富士市)、服部病院(磐田市)2病院	障害福祉課
			R4	同上	
	医療従事者向け研修の受講者数(R4～R5累計...70人)	R3	医療・福祉従事者向け研修(1病院)：計17人参加	障害福祉課	
		R4	医療・福祉従事者向け研修(2病院)：計83人参加		
再発防止	社会復帰の支援	生活困窮者支援、就労支援などの社会復帰に携わる者への研修の実施回数(年1回)	R3	県が実施するギャンブル等依存症研修への受講勧奨	障害福祉課 地域福祉課
			R4	依存症フォーラムに生活困窮者支援者が任意参加	
基盤整備	依存症対策体制整備	関係機関による連絡協議会の開催回数(年1回)	R3	ギャンブル等依存症対策連絡協議会：1回開催	障害福祉課
			R4	同上	
		関係事業者における従事者向け研修の開催回数(毎年度継続実施)	R3	公営競技事業者、遊技業協同組合ともに実施	公営競技事業者遊技業協同組合
			R4	同上	

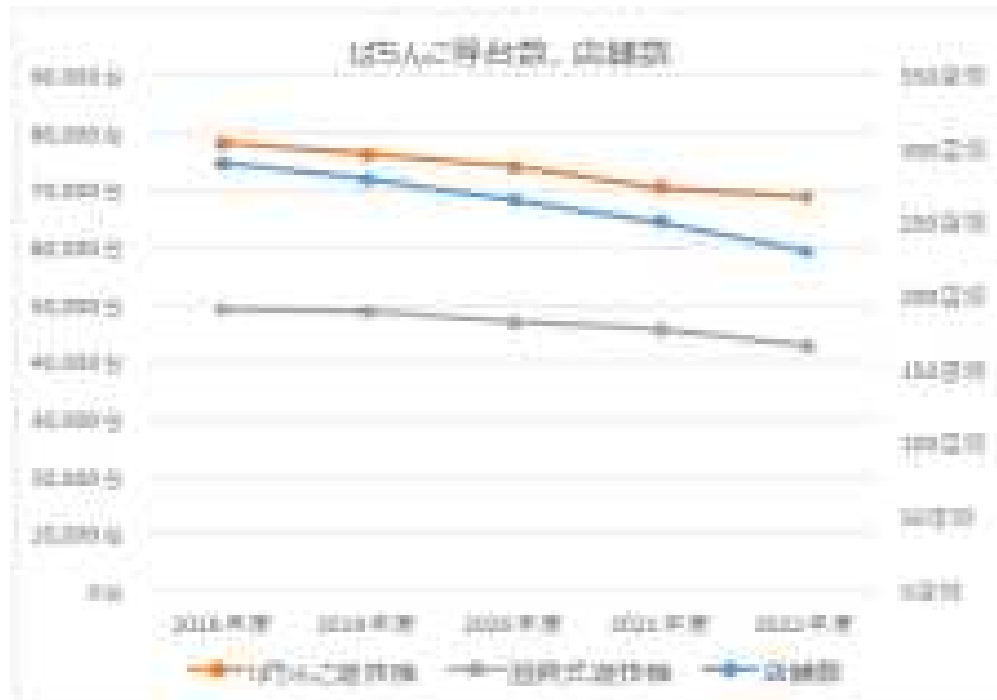
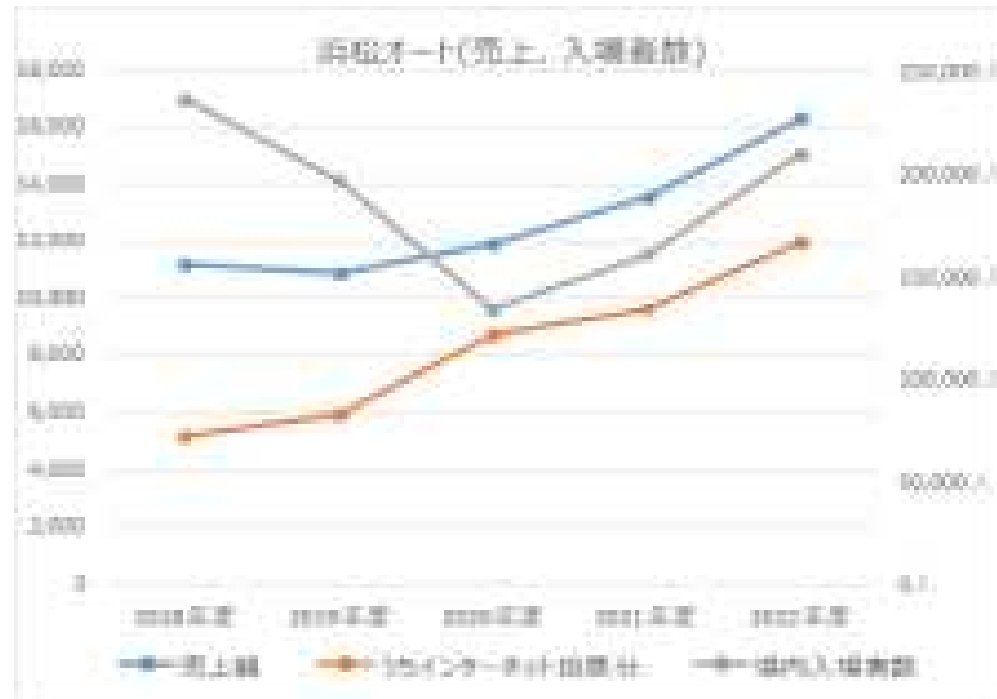
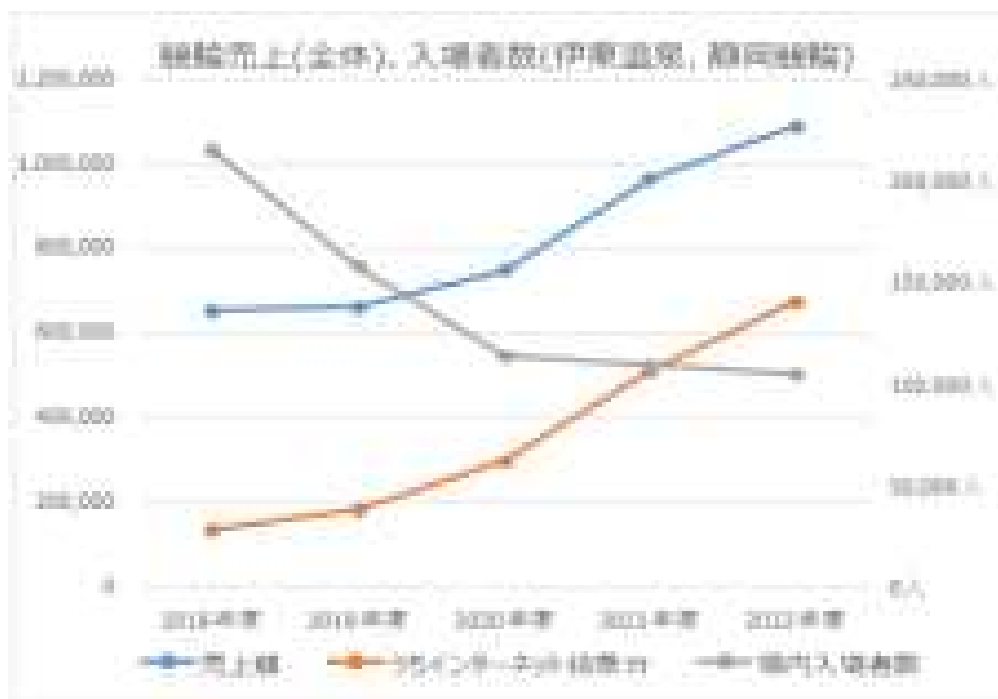
3 関係事業者による取組状況

		浜名湖競艇	静岡競輪	伊東温泉競輪
発生予防	ギャンブル依存の予防に配慮した広告・宣伝	令和4年3月に制定された「ボートレース広告・宣伝指針」等に基づいた広告・宣伝を実施	令和4年3月に制定された「競輪の広告・宣伝に関するガイドライン及び「一般社団法人日本民間放送連盟放送基準」等に基づいた広告・宣伝を実施	令和4年3月に制定された「競輪の広告・宣伝に関するガイドライン及び「一般社団法人日本民間放送連盟放送基準」等に基づいた広告・宣伝を実施
	本人家族申告によるアクセス制限の強化	本人記入による入場制限の同意書の提出 0人	対応窓口を開設し相談があれば対応できる体制を維持 0人	対応窓口を開設し相談があれば対応できる体制を維持 0人
	20歳(18歳)未満の者の利用の禁止	出走表、広告物、場内放送、場内映像、ステッカーの添付、巡回警備強化等による20歳未満の者への注意喚起等を実施	場内での案内放送及び、警備員による年齢確認の実施	場内での案内放送及び、警備員による年齢確認の実施
進行予防	関係事業者による相談支援の	本人申告による入場制限解除を実施 相談件数1件	相談窓口を設置 ...相談者なし	相談窓口を設置 ...相談者なし。
基盤整備	依存症対策の体制整備(研修・相談窓口の周知等)	・ボートレース業界 ギャンブル等依存症対策責任者研修 ・県公営競技連絡協議会 ギャンブル依存症研修会 ・ボートレース業界地区別ギャンブル依存症担当者研修会	県公営競技連絡協議会主催の研修に参加：5名	県公営競技連絡協議会主催の研修に参加

3 関係事業者による取組状況

		浜松オ-ト	遊技業協同組合
発生予防	ギャンブル依存の予防に配慮した広告・宣伝	ポスター、開催日程カード 73,280枚 開催告知CM 7種類 新聞広告 27開催分	店舗内のポスター、新聞折込チラシ、インターネット広告等について、風営適正化法及び本年度業界が制定した「広告・宣伝ガイドライン」に基づき、著しく射幸心をあおる内容にならない広告・宣伝を実施
	本人家族申告によるアクセス制限の強化	本人からの申請により永久的な入場禁止措置を実施 1人	「自己申告・家族申告プログラム」未導入店舗の早期導入等について通知を发出 「自己申告プログラム」191店舗、「家族申告プログラム」185店舗が導入
	20歳(18歳)未満の者の利用の禁止	警備員による入口での入場規制及び場内巡回による車券発売機での購入監視を実施	店舗出入口等に「18歳未満の者の入場禁止」のポスターを掲示するなど、18歳未満の者による店舗内への立入及び遊技禁止の強化に取り組んだ
進行予防	関係事業者による相談支援の	場内に設置した「依存症相談窓口」にて対面相談を実施 相談者の希望により浜松市精神保健福祉センターを案内(1人)、永久的な入場禁止措置(1人)を実施	リカバリーサポート・ネットワークの相談窓口や「自己申告・家族申告プログラム」を紹介するとともに店舗内にネットワークの相談窓口等が記載されたポスター等を掲示
基盤整備	依存症対策の体制整備(研修・相談窓口の周知等)	・県公営競技連絡協議会が開催した研修会に参加 ・経済産業省製造産業局車両室が開催した研修会【WEB】に参加	「安心パチンコ・パチスロアドバイザー講習会」を2回(10月26日、27日)、経営者等研修会(令和5年2月15日)を開催

3 関係事業者による取組状況 【オンライン化の状況】



4 医療機関・相談機関における現状認識【医療機関：聖明病院】

受診患者の動向・傾向 (コロナ禍を通じた変化等)	<p>デイケア利用患者数は増加傾向 (増加の要因...ギャンブル障害の認知度が地域に浸透し始めたこと、デイケア利用患者の若年化) 近年スマホでの公営ギャンブル、オンラインカジノなどが自宅で可能となり、一度に高額を賭けることができるギャンブルが増えてきており、問題が生じてからデイケア利用に至るまでの期間が以前よりも短く、若年化が進んでいる。 ゲームに関しては、子ども・成人とも課金が問題となっている。 なお新型コロナウイルスの流行の影響で、子どもが学校生活の登校が制限されてゲーム時間が増えた事例があった。</p>
相談者の動向・傾向 (コロナ禍を通じた変化等)	<p>ギャンブル障害では本人・家族とも同程度の相談案件がある。 パチンコ・パチスロでは借金が多額となってから相談となるケースが多い。 また、ゲーム依存(障害)に関しては家族からの相談となるケースが多い。</p>
受診・相談を通じた困り感 (コロナ禍を通じた変化等)	<p>デイケア利用患者の数の増加 一人一人に対して手厚く話を聞く機会が減少している。また、プログラムをドロップアウトする患者もいる。 オンラインではインターネット環境により場所を問わず行える点や、電子マネーなどで資金を調達しやすい点など、オフラインのものとは対処法が異なることから、オンラインのギャンブル行為に合わせたプログラムの改変、実施が求められる。</p>

今後の方向性

関係機関との連携にあたっての課題感

発生 予防	正しい知識の普及	<p>ゲームの課金については、思春期だけでなく、青年～成人期前期であっても問題となることが多い。 課金の問題については、今後、医療だけでなく行政・教育現場でも共有できるとよい。</p>
	教育の振興	<p>ゲーム障害に関しては、学校での予防教育の実施が今後望ましい。</p>
進行 予防	相談支援の充実	<p>地域の自助グループ(GA)への参加率が低い。 自助グループへの参加は必ずしも必要ではないが、進行予防の観点からできれば参加したほうが好ましい。</p>
	医療の充実	<p>ギャンブルに関しては標準プログラムが普及しつつあるが受診可能な医療機関が充実していくことが望ましい。 定期的にギャンブル依存については相談と初診予約がある。 ゲーム障害については対応可能な医療機関が県内に少ないことが課題</p>
再発 防止	社会復帰の支援	<p>治療開始とともに債務問題の解決が必要となることがあり、ギャンブル問題に詳しい司法書士との連携が不可欠</p>

4 医療機関・相談機関における現状認識【相談機関】精神保健福祉センター

<p>相談者の動向・傾向 (コロナ禍を通じた変化等)</p>	<p>コロナ禍では相談件数は減少したが、令和4年度にはコロナ禍以前よりも増加している。</p> <p>物質依存は依存対象から離れることが行動目標となるが、ゲームやオンラインギャンブル等では依存対象であるスマートフォンから離れた生活環境をつくるのが難しく、本人、家族、相談機関でも困惑感を持っている。</p> <p>特に、学齢期のゲーム・ネット依存では、依存行動だけでなく、その行動背景こそが解決すべき問題であるが、相談者は依存行動のみに着眼する傾向にあるため、本来の問題にたどり着きにくくなっている。</p> <p>ギャンブル依存では借金問題(多重債務)の問題から、法テラス等を紹介するケースがある。</p> <p>多重債務問題という目に見える問題があるため、回復プログラムにつながりやすくなっている印象がある</p>
<p>相談支援を通じた困り感 (コロナ禍を通じた変化等)</p>	<p>オンラインでのギャンブルの場合、短期間でかつ多額の債務を抱えることになる印象がある。</p> <p>「ギャンブルの負けはギャンブルで取り返す」との思考が根強く、悪循環に陥ることとなる。 当事者の自覚だけでは立ち直るきっかけをつかむことすら難しいと感じている。</p>

施策の方向性		関係機関との連携にあたっての課題感
発生 予防	正しい知識の普及	<p>家族が借金の肩代わりをして悪循環に陥るケースがあり、周囲の者に対する正しい理解を促す普及啓発が必要</p> <p>大学、専門学校などと連携した普及啓発が必要ではないか</p>
	教育の振興	<p>学齢期のゲーム・ネットの問題が顕著になっている中、教育機関との連携が必要</p> <p>市町の精神保健福祉分野と母子保健分野との連携が必要ではないか</p>
進行 予防	相談支援の充実	<p>ギャンブルやゲーム・ネット依存の診療を行う医療機関や自助グループが少ない(ない)</p> <p>依存症への支援とともに、法律家と連携して金銭面を立て直すための相談会など連携した取組ができるとよい</p> <p>相談支援機関での依存症に関する理解が課題ではないか</p> <p>市町でも相談を受けられる体制が整うことが望まれるが...</p>
	医療の充実	<p>依存症の治療が可能な医療機関が限られている</p> <p>学齢期のゲーム・ネット依存においては、さらに医療機関が限られる</p>
再発 防止	社会復帰の支援	<p>当事者が支援機関や自助グループに長期間つながり続けることが難しい</p> <p>切れ目ない支援のため、医療機関、自助グループ、司法機関と連携して取り組むことが望まれる</p>

4 医療機関・相談機関における現状認識【相談機関】（県民生活センター）

相談者の動向・傾向 (コロナ禍を通じた変化等)	<p>【賀茂】 相談者にギャンブル依存症であるか確認していないため、依存症または依存症が疑われる方からの相談実績などは不明である。 投資詐欺などの被害に遭っている人は、儲かることを信じて多額の金銭をつぎ込んでしまうことや、過去にも同様の手口で被害に遭っている場合が多いことから、ある意味ギャンブル依存に近い心理状態になっているものと思われる。</p> <p>【東部】 <ゲームに関する相談> 契約当事者年齢は10代、相談者年齢は40代に最も多く、本人よりも親や家族からの相談が多い。 親名義のクレジットカード等と子どものスマートフォンやゲーム機が紐付けされており、高額な請求が来て初めて、課金に気づくケースが多い。</p> <p><ギャンブルによる多重債務に関する相談> ギャンブルにのめりこみ、複数の消費者金融や友人から借金をしたり、借金の支払いができずさらに借金をした、また、ギャンブルによる借金返済のため友人から誘われ投資したが持ち逃げされたなど二次被害に遭うケースも多い。</p> <p>【中部】 借金に関する相談に対して、債務整理等について、弁護士への委任や相談を助言している。 ギャンブル依存症の治療、支援に関する相談については、自助グループや医療機関に相談するよう助言している。</p>
相談支援を通じた困り感 (コロナ禍を通じた変化等)	<p>【賀茂】 仮にギャンブル依存症の方から相談があった場合、依存症に関する知識が乏しいことや、行政機関・医療機関など適切な支援先の情報がないため、どのように対応したらよいか戸惑う可能性が高い。</p> <p>【東部】 相談内容に応じて、専門の相談機関や医療機関、自助グループ等を案内しているが、自助グループによる活動拠点等は、一部の地域（人口の多い地域）に偏りがちなので、活動拠点が拡大することで利便性が向上し、支援を必要としている人が参加しやすくなる考える。 リーフレット『わかってるのにやめられない』は相談窓口紹介の際の参考となっている。</p> <p>【中部】 適切な相談先が周知されていないと感じる。 ギャンブルをやめられず、多重債務がさらに重なっていくことがあり、適切な治療、支援が必要であると感じる。 家族からの相談が多く、助言内容が本人に伝わっているか不明な状況がある。</p>

5 第2期 県計画の策定に向けた検討【現状の課題感】

現状の課題感

昨年度の【静岡県ギャンブル等依存症対策連絡協議会】での主な意見

- ・インターネット投票の普及による影響
低年齢化、賭け金額の高額化 目に見えない者にどのように依存症を啓発に苦慮
より安易に賭け事ができる環境(スマホで決済まで完結できる)
- ・オンラインカジノ...ギャンブルの入口として若者が利用しやすい環境
- ・児童生徒への適切な知識の普及が重要(技術の進歩に合わせて教員の資質向上も必要)
- ・ギャンブル依存はストレス解消の手段(自己治療)の繰り返しによって陥いる
- ・消費相談ではデジタル関係(課金)の相談が増えている 低年齢からの消費者教育が重要(SNSによる啓発等)
- ・デジタル化の進行により、実感が薄くなることでトラブル(被害)が大きくなる

その他、診療・相談等を通じての主な課題感

- ・大学、専門学校等と連携した普及啓発が必要(ギャンブルに加えてアルコール飲酒に関しても)
- ・相談支援機関での依存症に関する理解が必要(消費者相談での依存症に関する知識・情報が不足)
- ・依存症治療とともに債務問題の解決が必要となるため、ギャンブル問題に詳しい司法書士等との連携が不可欠
- ・学齢期のゲーム・ネット依存の問題が顕著 教育機関との連携、学校での予防教育が望まれる
- ・切れ目ない支援のため、医療機関、自助グループ、相談機関、司法機関との連携した取組が望まれる
- ・ギャンブル等依存、ゲーム・ネット依存の診療が可能な医療機関が限られている

6 第2期 県計画の策定に向けた検討【骨子案】

第2期計画【骨子案】の主なポイント

1 国の【第2期ギャンブル等依存症対策推進基本計画】との整合

< 国基本計画で『基本的施策』に追加されている施策の検討 >

- ・インターネット投票における依存症対策の充実
- ・関係機関の連携強化を進め、包括的な支援の実現

2 現状の課題感を踏まえて今後の方向性を検討

- ・インターネット投票の普及による影響(低年齢化、賭け金額の高額化、安易に賭け事ができる環境)
- ・消費相談ではデジタル関係(課金)の相談が増えている
- ・デジタル化の進行により、実感が薄くなることでトラブル(被害)が大きくなる
- ・本人にギャンブル依存の認識(病識)がない 相談・治療につながりにくい
- ・児童生徒への適切な知識の普及が重要(技術の進歩に合わせて教員の資質向上も必要)
- ・ゲーム、ネットへの依存に関して、保護者からの相談が増加している傾向

3 ゲーム障害、ネット依存に関する事項を追記

- ・ゲーム障害はギャンブル等依存と同じ行動嗜癖であり、ギャンブル依存への『入り口』となるのでは
低年齢からの正しい知識の普及・啓発

6 第2期 県計画の策定に向けた検討【骨子案】

第2期計画【骨子案】の主なポイント

1 国の【第2期ギャンブル等依存症対策推進基本計画】との整合

< 国基本計画で『基本的施策』に追加されている施策の検討 >

- ・インターネット投票における依存症対策の充実
- ・関係機関の連携強化を進め、包括的な支援の実現

『国の【第2期ギャンブル等依存症対策推進計画】との整合

- ・インターネット投票における依存症対策の充実

【内閣府】

- ・予防的観点から、インターネット投票サイトにおいて、視覚的に訴える新たな注意喚起表示の導入
- ・競馬、モーターボート競走に加えて、競輪、オートレースにおける購入限度額設定の導入

【県】...特になし

【関係事業者】...特になし

- ・関係機関の連携強化を進め、包括的な支援の実現

【内閣府】...各都道府県に対して、ギャンブル等依存症対策連携会議の設置を呼びかけ(通知発出)

【県】...ギャンブル等依存症対策連絡協議会の設置・運営

その他、これまで実施してきた以下の取組を必要に応じて実施

- ・相談拠点(精神保健福祉センター)と自助グループとの協働による「依存相談」、「リカバリーミーティング」
- ・消費生活相談員研修に依存症治療拠点機関の職員を講師に迎えた相談対応研修 等

6 第2期 県計画の策定に向けた検討【骨子案】

第2期計画【骨子案】の主なポイント

2 現状の課題感を踏まえて今後の方向性を検討

- ・インターネット投票の普及による影響(低年齢化、賭け金額の高額化、安易に賭け事ができる環境)
- ・消費相談ではデジタル関係(課金)の相談が増えている
- ・デジタル化の進行により、実感が薄くなることでトラブル(被害)が大きくなる
- ・本人にギャンブル依存の認識(病識)がない 相談・治療につながりにくい
- ・児童生徒への適切な知識の普及が重要(技術の進歩に合わせて教員の資質向上も必要)
- ・ゲーム、ネットへの依存に関して、保護者からの相談が増加している傾向

現状の課題感を踏まえた今後の施策の方向性

- ・消費相談ではデジタル関係(課金)の相談が増えている
- ・デジタル化の進行により、実感が薄くなることでトラブル(被害)が大きくなる
- ・本人にギャンブル依存の認識(病識)がない 相談・治療につながりにくい

次期県計画【2 進行予防(1)相談支援の充実】の中で、消費者生活相談におけるギャンブル等依存に係る対応について記載

- ・児童生徒への適切な知識の普及が重要(技術の進歩に合わせて教員の資質向上も必要)

次期県計画【1 発生予防(2)教育の振興】の中で、児童生徒に対する『コントロール障害』に関する啓発について記載

次期県計画【5 基盤整備(2)人材の確保】の中で、教育現場等での啓発に係る人材の養成について記載

- ・ゲーム、ネットへの依存に関して、保護者からの相談が増加している傾向

次期県計画【1 発生予防】において、(5)ゲーム障害、ネット依存に関する啓発について記載

6 第2期 県計画の策定に向けた検討【骨子案】

第2期計画【骨子案】の主なポイント

ゲーム障害、ネット依存に関する事項を追記

【ゲーム依存】はギャンブル等依存と同じ行動嗜癖であり、ギャンブル依存への『入り口』となるのではないかと、低年齢からの正しい知識の普及・啓発のためにも、ギャンブル等依存症対策推進計画に記載してはどうか

1 ゲーム依存とは（「行動嗜癖」という点ではギャンブル依存と同じ）

ゲームに対する制御(時間・頻度等)の障害、ゲームが日常生活よりも優先される、否定的な結果の発生にもかかわらずゲームを続けてしまう この状態が12ヶ月以上続く場合にゲーム障害と診断される

2 ゲームが脳に与える影響

- ・報酬に関わる脳の神経回路が繰り返して「快楽・刺激」を得ることにより変化した行動嗜癖
- ・行動嗜癖は長期間を経て報酬回路に起こった変化は容易に元に戻らない

3 ゲームの依存性（近年のゲームの特徴）

- | | |
|------------|---|
| 【オンラインゲーム】 | チームで参加 = 責任感からやめられない 飽きさせない工夫、ゲーム内での人間関係が強化 |
| 【課金『ガチャ』】 | 金銭的な影響（子ども...浪費している認識が無いことも） |
| 【競争・ランキング】 | 現実世界では得にくい達成感や自己肯定感を満たす ギャンブル同様、依存性を高める要因 |

4 ゲーム依存が与える影響（心身等への影響）

- | | | |
|---------------|-------------------------|--|
| (1) からだへの影響 | 体力低下、視力低下、昼夜逆転等 | ゲーム依存に併存しやすい精神疾患【うつ病、不安、睡眠障害、注意欠陥・多動症、自閉症(ASD)等】 |
| (2) こころへの影響 | 意欲の低下、ひきこもり | |
| (3) 学業・仕事への影響 | 遅刻、欠席、成績低下、意欲の低下 | |
| (4) 家族・周囲への影響 | 暴言・暴力の問題、浪費・借金など経済的問題など | |

5 コロナ禍における動向(外出制限・オンラインの普及等による影響)

- ・コロナ禍において、インターネット利用が増大(前年度比:38.4%)【令和3年度消費白書】
- ・スマートフォン利用時間(高校生)...225分(3時間以上の利用...62.4%)【内閣府青少年インターネット利用実態調査】

6 第2期 県計画の策定に向けた検討【骨子案】

依存に関係する脳の神経系

- ・ 理性の脳と呼ばれる前頭前野の働き(ブレーキの役割)が悪くなる
- ・ 刺激に対して脳が過剰に反応する
- ・ 報酬に対する反応が低下する(報酬欠乏状態)
- ・ 例えばギャンブルの場合、多少の額の勝ちでは満足できなくなる。負けても大きな問題として捉えなくなる

前頭葉(脳の司令部)
思考・運動・言語を発する機能。感情や欲求の調整、価値判断なども行う。



■：ドーパミンを分泌している箇所 (AS - A15)

■：ドーパミンが流れていく箇所

◆ドーパミン

運動調節、ホルモン調節、快の感情、食欲、学習などに関わる神経伝達物質。

厚生労働省依存症対策推進室資料
『ギャンブル依存症の理解と相談支援の視点』より抜粋

6 第2期 県計画の策定に向けた検討【骨子案】

ゲーム障害・ネット依存に関して

ゲーム・ネット依存：現状の取組（県） < 参考：令和5年度予定 >

(1) ゲーム障害・ネット依存ワークショップ（県教育委員会と共催）

概要	ゲーム障害・ネット依存傾向のある本人の家族、教育関係者及び一般県民向けに開催。 ゲーム障害・ネット依存への基本的理解を促すとともに、回復支援プログラムにつなげることを目的とする。 ・開催回数：6回、定員40名程度 ・開催場所：富士、沼津、静岡、オンライン、掛川、浜松	
委託先	聖明病院（富士市）へ委託	聖明病院...静岡県依存症治療拠点機関

(2) 回復支援プログラム

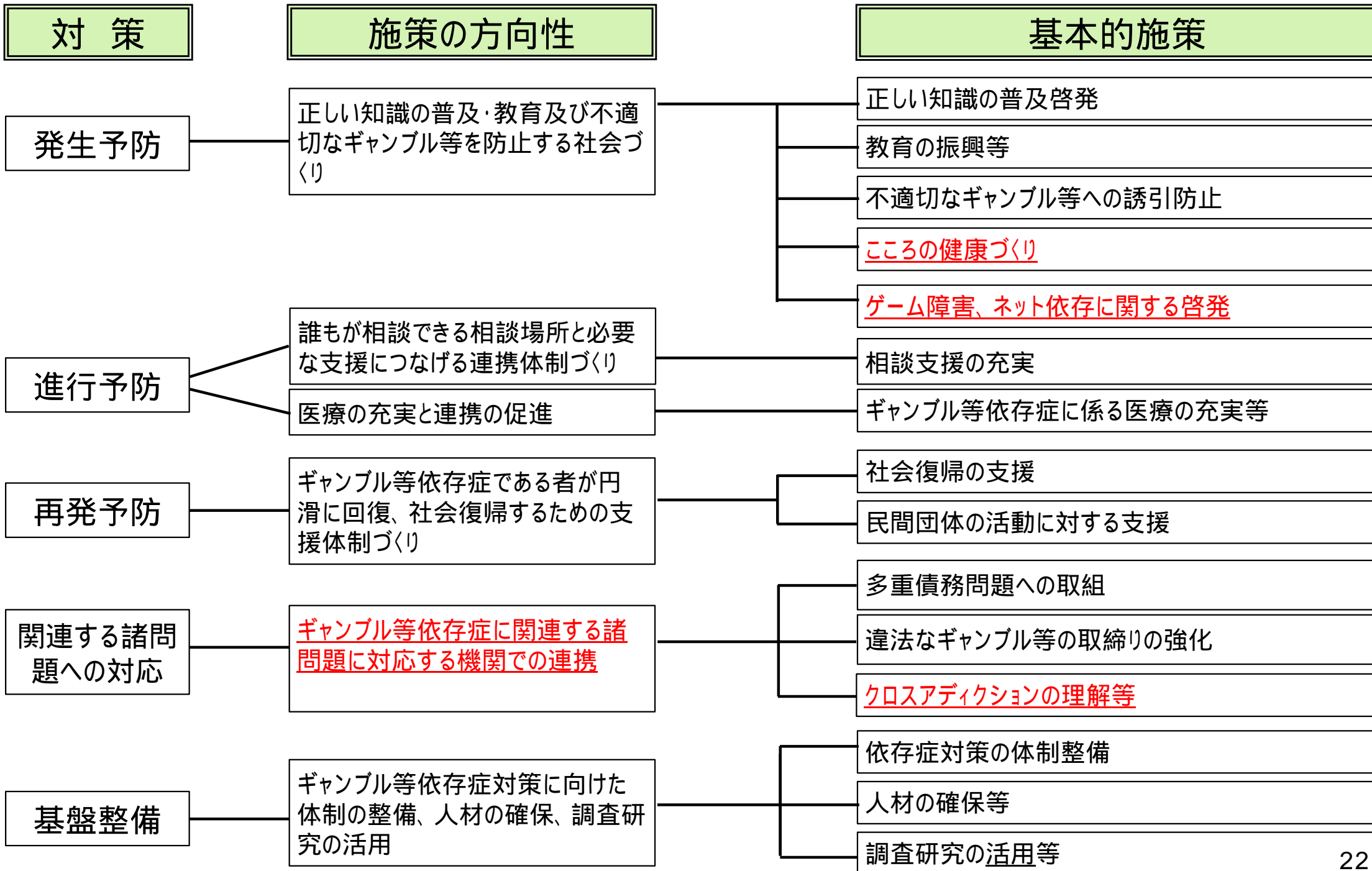
概要	医療機関と連携し、ゲーム障害・ネット依存に対する相談から回復支援に至るまでのプログラムを都道府県レベルでは先駆的に試行実施する。また、家族への支援も実施する。 ・開催回数：4クール ・開催場所：沼津、静岡（2クール）、浜松	
委託先	聖明病院（富士市）へ委託	聖明病院...静岡県依存症治療拠点機関

	本人向けプログラム	家族向けプログラム
対象者	ゲーム障害・ネット依存の疑いがある者	ゲーム障害・ネット依存の疑いがある者の家族
内容	医療機関が作成したテキストを用いた認知行動療法に基づく集団プログラムを実施 < 4回を1クールとして開催 >	医療機関が作成したテキストにより家族の不安解消や今後の家族の対応方法について学ぶプログラムを実施 < 4回を1クールとして開催 >
定員	1クール 10名程度	1クール 20名程度

7 第2期 県ギャンブル等依存症対策推進計画の策定【骨子案】

	第1期計画		第2期改定案
基本理念	ギャンブル等依存症の発症、進行及び再発の各段階に応じた予防対策を適切に実施するとともに、当事者及びその家族が日常生活及び社会生活を円滑に営むことができるよう支援することで、誰もが健康で安心して暮らすことのできる共生社会の実現を目指す。		同左
	ギャンブル等依存症が、多重債務、貧困、虐待、自殺、犯罪等の問題に密接に関連することに鑑み、これらの問題に関する施策との有機的な連携を図る。		同左
	医療提供体制の整備や相談支援において相互活用を図るなど、アルコール、薬物等に対する依存に関する施策との有機的な連携を図る。		同左
重点目標	ギャンブル等依存症に関する正しい知識の普及を徹底し、将来にわたるギャンブル等依存症の発症を予防		同左
	ギャンブル等依存症に関する予防及び相談からの治療、回復支援に至る切れ目のない支援体制の整備		同左
施策の方向性	発生予防	(1)正しい知識の普及・教育及び不適切なギャンブル等を防止する社会づくり	同左
	進行予防	(2)もが相談できる相談場所と必要な支援につなげる連携体制づくり	同左
		(3)医療の充実と連携の促進	同左
	再発予防	(4)ギャンブル等依存症が円滑に回復・社会復帰するための体制づくり	同左
	<u>多重債務問題</u>	(5) <u>ギャンブル等依存症問題への取組の推進</u>	ギャンブルに関連する諸問題に対応する機関の連携
基盤整備	(6)ギャンブル等依存症対策に向けた体制の整備、人材の確保等	同左	

7 第2期 県ギャンブル等依存症対策推進計画の策定【骨子案】



7 第2期 県ギャンブル等依存症対策推進計画の策定【骨子案】

はじめに

- 1 計画策定の趣旨
- 2 計画の位置付け、期間、基本的な考え方
- 3 国、地方公共団体、事業者、県民等の責務

本県のギャンブル等をめぐる状況

- 1 ギャンブル等の状況
- 2 ギャンブル等依存症問題の状況(全国調査の状況を含む)
- 3 ギャンブル等依存症に関連する諸問題
- 4 第1期計画の評価、課題の抽出

ギャンブル等依存症対策の基本理念等

- 1 基本理念
- 2 施策の方向性
《発生予防》、《進行予防》、《再発予防》
《多重債務問題等への取組》、《基盤整備》
- 3 重点目標
ギャンブル等依存症に関する正しい知識の普及を徹底し、将来にわたるギャンブル等依存症の発症を予防
ギャンブル等依存症に関する予防及び相談から治療、回復支援に至る切れ目ない支援体制の整備

計画の体系

基本的施策

- 1 発生予防対策
(1)正しい知識の普及啓発

基本的施策

- (2)教育の振興等(コントロール障害に関する理解)
- (3)不適切なギャンブル等への誘引の防止
- (4)こころの健康づくり
- (5)ゲーム障害、ネット依存に関する啓発
- 2 進行予防対策
(1)相談支援の充実
(2)ギャンブル等依存症に係る医療の充実
- 3 再発予防対策
(1)社会復帰の支援
(2)民間団体の活動に対する支援
- 4 ギャンブル等依存症に関連する諸問題への対応
(1)多重債務問題への取組
(2)違法なギャンブル等の取締り等の強化
(3)クロスアディクションの理解促進
- 5 基盤整備
(1)依存症対策の体制整備
(2)人材の確保等
(3)調査研究の活用

推進体制等

- 関連施策との有機的な連携
推進体制ほか

7 第2期 県ギャンブル等依存症対策推進計画の策定【骨子案】

基本的施策(詳細)

1 発生予防対策

- (1)正しい知識の普及啓発
- ・依存症の理解を深めるための普及啓発
 - ・関係事業者による普及啓発
 - ・消費者向けの総合的な情報提供
 - ・青少年等に対する普及啓発の推進

- (2)教育の振興等
- ・児童生徒に対するコントロール障害に関する理解促進
 - ・ギャンブル等依存症に関する教員の理解促進
 - ・保護者等への普及啓発

- (3)不適切なギャンブル等への誘引の防止
- ・ギャンブル等依存症の予防に配慮した広告・宣伝
 - ・本人、家族申告によるアクセス制御の強化
 - ・20歳未満の者等の利用の禁止等
 - ・営業所内における遊技機の設置に関する取組

- (4)こころの健康づくり
- ・学校、職場、地域等でのメンタルヘルス対策の推進
 - ・居場所づくりなど孤独孤立対策との連携

- (5)ゲーム障害、ネット依存対策
- ・教育関係者、一般県民向に対する理解促進
 - ・ゲーム、ネット依存からの回復支援(本人、家族向け)

2 進行予防対策

- (1)相談支援の充実
- ・相談支援体制の充実及び本人・家族への支援
 - ・消費者生活相談における的確な対応
 - ・関係事業者による相談支援 ・相談支援者の育成

基本的施策(詳細)

2 進行予防対策

- (2)ギャンブル等依存症に係る医療の充実
- ・ギャンブル等依存症に係る医療の充実
 - ・医療連携の推進

3 再発予防対策

- (1)社会復帰の支援
- ・ギャンブル等依存症からの回復支援
 - ・生活困窮者等への支援
 - ・就労支援者のギャンブル等依存症に関する知識向上

- (2)民間団体の活動に対する支援
- ・自助グループの役割、活動の周知等

4 ギャンブル等依存に関連する諸問題への対応

- (1)多重債務問題への取組
- (2)違法なギャンブル等の取締り等の強化

(3)クロスアディクションの理解促進

5 基盤整備

- (1)依存症対策の体制整備
- ・包括的な連携協力体制の構築
 - ・関係事業者における体制整備

- (2)人材の確保等
- ・教育現場、相談窓口等での啓発に係る人材の養成

- (3)調査研究の活用

7 第2期 県ギャンブル等依存症対策推進計画の策定【骨子案】

次期計画の追記事項(依存症全般の特徴)

物質依存である『アルコール依存』、行動嗜癖である『ギャンブル等依存』は、いずれも、特定の物質や行動にのめりこみ制御できなくなるもので、自身の健康問題や社会・家族の問題が生じていても制御することができないとの特性がある。また、他の依存症を併発することもあるため、依存症全般の特徴について記載の上、ギャンブル依存に関して記載する。

依存症全般の特徴(特性・対応の困難さ)

・コントロール障害	特定の物質・行動に心を奪われ、のめり込み、制御できなくなる 『やめたくてもやめられない』習慣
・進行性の病気	放置すればどんどん進行する(より強い刺激を求めることで症状が進行する)
・価値観の逆転	家族・仕事・将来設計など生活の全てに優先してのめり込む 問題が生じていても制御できない
・問題の否認	借金・家庭内の問題等の現実を見ない、事態の過小評価、現実や事実を認めず攻撃的になる
・家族を巻き込む	家族が悩み、借金の肩代わりを行う等の目の前の問題解決に奔走し、心身・金銭面で疲弊

ギャンブル等依存症とは

ギャンブル等(公営競技、ぱちんこに係る遊戯その他の射幸行為)にのめり込むことにより日常生活又は社会生活に支障が生じている状態をいう。<ギャンブル等依存症対策基本法第2条>

ギャンブル等依存症の特徴的な症状

- ・ギャンブルにのめり込む・興奮を求めて掛金が増えていく
- ・ギャンブルを減らそう、やめようとしてもうまくいかない(負けを取り戻すためにギャンブルをする)
- ・ギャンブルをしないと落ち着かない、ギャンブルを人生の中で重要なものだと考えている
- ・日常生活や社会生活に重大な問題が生じてても止められない、エスカレートする
- ・ギャンブルのことで嘘をついたり借金したりする

7 第2期 県ギャンブル等依存症対策推進計画の策定(その他)

次期計画の記載事項(その他追加事項)

ギャンブル依存チェック(SOGS)、ゲーム依存チェック

SOGS (The South Oaks Gambling Screen)

- 世界的に最も多く用いられているギャンブル依存の簡易スクリーニングテスト。
- 若年者用や地域の実情に合わせた修正版も作られている。

- ・ ギャンブルで負けたとき、負けた分を取り返そうとして別の日にまたギャンブルをしましたか。
(選択肢 a.しない、b.2回に1回はする、c.たいていそうする、d.いつもそうする (aまたはbを選択すると1点))
- ・ ギャンブルで負けたときも、勝っていると感じたことがありますか。
(選択肢 a.ない、b.半分はそうする、c.たいていそうする (aまたはcを選択すると1点))
- ・ ギャンブルのために何か問題が生じたことがありますか。
(選択肢 a.ない、b.以前はあったが今はない、c.ある (aまたはcを選択すると1点))
- ・ 自分がしようと思った以上にギャンブルにはまったことがありますか。
(選択肢 a.ある、b.ない (aを選択すると1点))
- ・ ギャンブルのために人から非難を受けたことがありますか。
(選択肢 a.ある、b.ない (aを選択すると1点))
- ・ 自分のギャンブル癖やその結果生じた事柄に対して、悪いなと感じたことがありますか。
(選択肢 a.ある、b.ない (aを選択すると1点))
- ・ ギャンブルをやめようと思っても、不可能だと感じたことがありますか。
(選択肢 a.ある、b.ない (aを選択すると1点))
- ・ ギャンブルの監視となる者などを、家族の目に触れぬように隠したことがありますか。
(選択肢 a.ある、b.ない (aを選択すると1点))
- ・ ギャンブルに使うお金に関して、家族と口論になったことがありますか。
(選択肢 a.ある、b.ない (aを選択すると1点))
- ・ 借りたお金をギャンブルに使ってしまい、返せなくなったことがありますか。
(選択肢 a.ある、b.ない (aを選択すると1点))
- ・ ギャンブルのために、仕事や学業をさぼったことがありますか。
(選択肢 a.ある、b.ない (aを選択すると1点))
- ・ ギャンブルに使うお金はどのようにしてつくりましたか、またどのようにして借金をしましたか。当てはまるものに何個でも○をつけてください。
(選択肢 a.生活費を削って、b.配偶者のお金から、c.両親、知人から、d.銀行から、e.定期預金の解約、f.保険の解約、g.家財を売ったり質に入れて、h.消費者金融から、i.ヤミ金融から (○1個につき1点))

早期発見 支援につなげるため、ギャンブル依存やゲーム・ネット依存の簡易スクリーニングテストを掲載してはどうか。

※ 12項目の質問中、その回答から算出した点数が8点以上の場合にギャンブル依存の疑いありとされる。

※ 3点ないし4点の者は将来ギャンブル依存になる可能性が高い(問題ギャンブラー)。

7 第2期 県ギャンブル等依存症対策推進計画の策定(その他)

次期計画の記載事項(その他追加事項)

自助グループ、本人・家族の体験談、依存症専門医療機関、相談機関等の活動紹介

支援を必要としている者を、早期に、【相談】、【医療機関への受診】、【自助グループ等】につなげられるよう、関係機関の活動等を計画(資料編)に掲載してはどうか。掲載する範囲は要調整

【福岡県ギャンブル等依存症対策推進計画】での事例

全国ギャンブル依存症家族の会福岡

- 【目的】ギャンブル依存症の当事者が抱える問題を広く知ってもらうことを目的として、啓発活動、情報提供などの活動を行っている。
- 【内容】同じ悩みを抱える人と話し合いを分かち合い、解決に向けて知恵を出し合う。ギャンブル依存症の当事者同士が抱える同じ悩み、苦しみを分かち合い、様々な経験を通じた具体的な解決策を提案支援としてサポートします。

対象	活動内容		連絡先
	日時	会場(住所)	
<ul style="list-style-type: none"> ご家族がギャンブルなどお困りされている方 ご家族が病者、依存症回復施設に入居されている方 これから依存症回復施設の入居を考えている方 ギャンブル依存症について詳しく知りたい方 などでも参加できる	毎月1回	久留米レイオプラザ(久留米市中央門前通り1-1)	NPO法人「全国ギャンブル依存症家族の会」 〒142-0822 東京都葛飾区大塚町120番地 TEL) 03-3713-1844 FAX) 03-381-4120 Eメール) gpfam.fukuoka@gmail.com HP) http://www.gpfam.org/

ギャンブル依存症問題を考える会福岡

- 【目的】ギャンブル依存症に関する正しい知識の普及、当事者・家族に向けた情報提供、支援、青少年や社会に与える影響教育の推進、支援者同士の連携づくり。
- 【内容】①ギャンブル依存症基礎講座(ギャンブル依存症患者の家族相談会(ギャンブル依存症にかかるとなる・啓発活動)ギャンブル依存症コールセンターの設置)ギャンブル依存症に関する研究、出版物の発行、啓発活動の制作、ホームページの作成・運営

対象	団体概要		連絡先
	沿革	活動実績	
当事者・家族に限らず、広く一般	2014年1月設立 4月一般社団法人 2018年3月公益社団法人 認定 本部・本部 支部 20	福岡県 22 郡市街 家族相談会: 90 会場 基礎講座: 24 会場 開校セミナー: 44 会場	公益社団法人ギャンブル依存症問題を考える会 〒144-0822 東京都中央区新富1-21-1 豊通町アール・ゲニス1809号室 TEL) 03-3458-1785 相談専用TEL) 03-4521-9825 FAX) 03-4260-5833 HP) https://kaga.jp/

GA (ギャンブラーズ・アノニマス)

- 【目的】経験と力を尊重を分かち合っていて共通の問題を解決し、ギャンブル依存症からの回復を目指す。
- 【内容】12ステップを使ったミーティング(オープン(言いっぱなし、聞きっぱなし)、ギャンブル以外の依存症で悩んでいる方の参加も可能なグループもある。)(別会場は場所を確保しているのみであり、会場へ直接問い合わせることは不可。)

対象	グループ	ミーティング日時/場所	連絡先
①オープンミーティングにほどなくとも参加していただけます(本人・家族・友人・医療・援助機関関係者)。	福岡県内 12グループ	北九州地区 7箇所、福岡地区 12箇所、筑前地区 1箇所、筑後地区 2箇所、で開催。	GA 日本インフォメーションセンター 〒142-0817 東京都中央区本町2-34-4 K251705, 501 FAX) 03-3737-8704 Eメール) gajapan@japan-anon.jp HP) http://www.gajapan.jp/
②クローズドミーティングには、ギャンブル依存症本人のみが参加とさせていただきます。		会場、ミーティング形式詳細は、各認めるホームページに掲載していますので、ご確認ください。 参加希望者は直接、会場までお越しください。(予約不要)	

Gam-Anon (ギヤマノン)

- 【目的】家族や友人のギャンブル依存症の問題について、体験と知恵を分かち合ったり、自分自身の事について考える。また、ギャンブル依存症という病気について知り、正しい対応の仕方を学ぶ。
- 【内容】匿名の「言いっぱなし、聞きっぱなし」のミーティングで、抱えている悩みや苦しみを分かち合う。

対象	グループ名	ミーティング		連絡先	
		日時	会場(住所)	TEL	ホームページ
クローズド	ギヤマノン八幡西	毎週土曜日 13:00-15:00 毎月第1,3,5水曜日 13:00-15:00	北九州中央区福岡西センター(2階) 北九州中央区西区事神3-4-1	—	ギヤマノン本部 (URL) http://www.gam-anon.jp/
オープン	ギヤマノン福岡	毎週土曜日 13:00-15:00 (第1土曜日には休みの場合があります)	大塚公民館 2F (2階) 福岡市博多区下宮原町10-11	TEL) 092-9475-8448 Eメール) gamanon.fukuoka@gmail.com	—

8 今後のスケジュール

時 期		内 容
令和5年	9月	静岡県ギャンブル等依存症対策連絡協議会(第1回)
	10月	静岡県依存症対策連絡協議会(第1回)
	11月	静岡県精神保健福祉審議会
	12月～	パブリックコメント
令和6年	2月	静岡県ギャンブル等依存症対策連絡協議会(第2回)
	2月	静岡県依存症対策連絡協議会(第2回)
	3月	静岡県精神保健福祉審議会(書面開催)
	3月	県議会常任委員会(厚生委員会)報告
	3月末	計画公表